

樹木とキノコと台風被害

—倒木と「チャアナタケモドキ」—

投稿者：宮井 正彦

千葉県を中心に南関東における「台風15号」の被害は未曾有で甚大であった。樹木に関しても、倒木は家屋の損壊、送電線の切断による停電、線路や道路の通行障害等々の二次被害を増大させた。千葉大の小林達明教授によれば、千葉県は山武杉（サンプスギ）の産地であり、溝腐病（非赤枯性の溝腐病＝病原菌「チャアナタケモドキ」）に弱い為に倒木を加速化したことを遠因に挙げていた。

スギの溝腐病

全景

材の切口 2019.09/23 撮影 埼玉県内



千葉県広報資料によれば、千葉県下の杉の植栽面積は44,991ha、内サンプスギ（山武杉）は7,735ha植栽されており、溝腐病（非赤枯性溝腐病）はその内の4,181haに罹病（罹病感染率54.1%）しているとのことである。「サンプスギ」は、他の杉に比べ、材が真直ぐ伸び成長が早いこと、材の断面が丸いこと、材色が美しいこと、雄花の着花数が少なく花粉症の軽減が期待されること等、優れた特長を有する一方、クローンである所以の溝腐病に遺伝的に弱い形質を曝け出してしまった。県の指導としては、枝枯れ痕からの感染を断つための「枝打ち作業」の徹底を推進したが、林業不振、後継者・人手不足から、殆ど手つかずの放置状態だったことが、倒木と二次被害を増大したと云う。

15号台風は、千葉県下では瞬間風速57.5m/秒が記録され、健全樹木の幹折れや根返りが起きても不思議でない未曾有の強烈な風台風でもあった。

サクラの「チャアナタケモドキ? *Fomitiporia* sp.」2019.09/20 撮影 埼玉県内



同子実体のメルツァー液による呈色反応 * 「偽アミロイド」 2019.09/20 撮影



「チャアナタケモドキ」 (*Fomitiporia* sp. 従来は *Fomitiporia punctate* = *Phellinus punctatus* とされたが現在は *Fomitiporia* (フォミチポリア属) に属する菌の一種とされ正式

の学名は未定。その子実体が「チャアナタケモドキ」である。本種の学名については検討が必要とされている。また、罹病する樹種によって子実体の形態も異なる。(例えば、子実体の子実層の管孔の深さがスギやサワラでは3mm程度と浅く単層(単年生)だがナシ・リンゴ・コウヤマキ・サクラ・ウメ・ヤナギ等では10mm以上あり多層形成(多年生)である。ナシの病名は萎縮病、スギ・サワラは幹溝腐病、コウヤマキは枝枯症となる。ナシの萎縮病は2種類の病原菌が関与し、その1種の子実体がチャアナタケモドキである。)今後、この属は種がさらに分化される可能性を持つ。従来「チャアナタケモドキ」として扱われたものをベースに論じてみたい。

担子菌のハラタケ綱タバコウロコタケ目タバコウロコタケ科フォミチポリア属するキノコで、この仲間は木材の強力な白色腐朽菌(セルロース、ヘミセルロース、リグニンまでも分解する。)が多い。

「チャアナタケモドキ」は、背着生の傘を造らないキノコで、枝の切り口や枯死枝部分から感染する。サンプスギやサワラ、コウヤマキ等の針葉樹では、枯死枝下から溝筋状に心材腐朽を起こす森林の重要病害である。広葉樹でもサクラ、ウメ、リンゴ、ナシなどに多くの樹木に発生が見られ、特にナシの萎縮病は果樹の重要病害になっている。サクラ(ソメイヨシノ)では、キノコ(子実体)が時々見られるが倒木に及ぼす状況には至っていない。今後、老木化し免疫力が低下する「ソメイヨシノ」にとっては危険性が增大することも考えられる。

「チャアナタケモドキ」に似たものに「チャアナタケ」や「サビアナタケ」がある。外見上の区別は困難である。「チャアナタケ」の胞子は有色で、タバコウロコタケ科の特徴である剛毛体はなく広葉樹のみに発生し暖温帯に多い。「チャアナタケモドキ」の胞子は無色で剛毛体は僅かに見られ広葉樹・針葉樹に発生し、温帯以北に多いそうだ。*偽アミロイド(デキストリノイド)である。「サビアナタケ」は沢山の剛毛体があり広葉樹に発生する。

最近の自然災害は激甚化する傾向にある。「リスク ZERO」の考え方を否定する向きの思想がちらほら窺える。確かに「自然の脅威」は人類の英知を遥かに超えており、畏敬の念を怠ってはならない。だからと言って、災害に慄いて想定外と称して、リスクから目を背けてはいられない。過去の経験と歴史を辿り、原因を追究して「リスク ZERO」を目指するのが人類の英知と科学力である。少しでもリスクをゼロに近づける努力が天災から身を守る術であり、「リスク ZERO」が基本姿勢である。災害の原因を究明し、その原因責任の所在を明確にしてこそ防災対策を講ずることが出来る。何に付度したのか、原発事故は想定外の天災として原因追及と責任の存在を曖昧にし、政府・企業責任を問わない判決を下す風潮は戴けない。千葉県をはじめ南関東の災害も原因究明をしっかりと戴き二度と繰り返さない対策の確立されることを切に願う次第である。

物理学者で文学者の寺田寅彦の名言「天災は忘れたところにやってくる。」を肝に銘じて、「備えあれば患いなし。」・・・。災害からの「リスク ZERO」を皆で目指しましょう。 以上